

昭和八年四月、神戸、和歌山の市會選舉戦に立候補し、特に神戸の森脇吾一君はよく健闘したが、非階級的な叩き落しのため惜敗した。

九年一月、横浜市會總改選に森榮一君立候補、無産団体濫立のうちに戦つたが、遂に高票を以て當選した。

八年六月、大阪にも市會の選挙があつたが無産団体の対立抗争を醜とし、自らは立候補せず主として日本労働組合會議關係の立候補者を應援した。

而して以上、立候補に際しては、殆んどみな總聯合の名の下に立候補し、いづれも當選又は次矣であつて、相當の成績をあげたのである。

その他前年度大會決定事項たる法律改正その他を首相、内相、社會局長官等に陳情し、且つ実現に努力するところがあつた。また京濱船夫組合が中心となつてゐる健康保険法に「船船夫及び港湾労働者」を加ふべきことを當局に陳情した。

且日各聯合會とも種々の活動が行はれ、東京聯合會の不潔水道純淨の指令、或ひは船夫組合の水上方面委員登新に関する要求、その他いづれも關係方面に復出し、種々

活動するところがあつた。(總聯合會内務部東京一陽会)

争議部

労働争議の数量的觀察

労働争議の件数に於て昭和六年の二千四百五十六件を最高とし、人員に於て昭和五年の十九萬一千八百五人を最大としてその後は減少しつつある。それは左表の示す通りである。

過去十年間に於ける争議額

年次	労働争議	
	總件数	總参加人員
大正十二年	六四七	六八、八一四
大正十三年	九三三	九四、〇四七
大正十四年	八一六	八九、三八七
大正十五年	一、二六〇	一、二七、二六七
昭和二年	一、二〇二	一〇、三、三五〇